塔のオントロジ
—『長谷寺銅版法華説相図銘』と長安西明寺の類聚編纂書群—

藏中 しのぶ

1.『諸経要集』敬塔部と『法苑珠林』敬塔篇のオントロジ

仏典における和漢古典学のオントロジモデルとして、長安西明寺の類聚編纂書のなかから、西明寺沙門釈道世の手になる『法苑珠林』と『諸経要集』における「塔」のオントロジをとりあげる(1)。

『法苑珠林』は総章元年(六六八)十月、長安西明寺の道世の撰になり、一〇〇篇六八八部、敬塔篇はその巻三六敬塔篇第三五～巻第三七・敬塔篇第三五之二(大正蔵第五三巻 No. 2122)に収録される。『諸経要集』もまた、おなじく道世の集になり、顕慶四年(六五九)以降の成立、三〇部一八五項目、敬塔部は巻第三敬塔部第二(大正蔵第五四巻 No. 2123)に収録される。

両書における「塔」のオントロジは、『諸経要集』敬塔部、『法苑珠林』敬塔篇に収録される。それぞれの下層分類は『諸経要集』に七縁、『法苑珠林』に六部あり、その内容はつぎのとおりである。

『諸経要集』敬塔部(此有七縁)	『法苑珠林』敬塔篇(此有六部)
《述意縁第一》	《述意部第一》
《引證縁第二》	《引證部第二》
《興造縁第三》	《興造部第三》
《感報縁第四》	《感福部第四》
《旋遶縁第五》	《旋繞部第五》
《入寺縁第六》	×
《修故縁第七》	《故塔部第六》

『諸経要集』における《入寺縁第六》は、『法苑珠林』敬塔篇には存在しない。ただし、『諸経要集』入寺縁第六には、

具在法苑珠林百卷之内士女篇述。

とあって、撰者道世みずから、《入寺縁第六》は『法苑珠林』にあっては士女篇に具に述べることを注記している。『諸経要集』三〇部一八五項目を、『法苑珠林』一〇〇篇六八八部に増補するにあたって、道世の分類概念に変化が生じたことが知られる。

巻末に付した付表は、『諸経要集』『法苑珠林』両書の本文全体を対照したものである。両書の先後関係は、『諸経要集』の成立年代があきらかでないため、未詳といわざるをえないが、おおむね、『諸経要集』を増補して成ったものが『法苑珠林』と考えられている。よって、本稿では両者の本文を対照する場合には、『諸経要集』『法苑珠林』の順で掲出することとする。

2.『長谷寺銅版法華説相図銘』の出典群

『長谷寺銅版法華説相図銘』(以下『法華説相図銘』)は、わが国の「塔」にかかわるごく初期に属する文学として注目される。成立には諸説あるが、天武十五年(六八六)、または文武二年(六九八)成立説が有力である。この銘文には、西明寺道宣撰『広弘明集』を典拠とする表現がいくつか指摘されている。そのもっとも顕著なものが、『広弘明集』巻十六「光宅寺刹下銘并序」である。『法

華説相図銘』の銘文 16 ～ 21 行、24 ～ 25 行にかけては、「光宅寺刹下銘并序」のつぎの箇所を典拠とする。『法華説相図銘』と一致する文字は、ゴチック体で表記した。

思所以永流聖跡、垂之不朽。今事與須彌等同、理與天地無窮。莫若光建寶塔、式伝于後。(中略)下洞淵泉、仰迫星漢。方當銷巨石於賢劫、極未來於忍土。(中略)同由厥路、俱至道場。(大正蔵二一〇三／第五二巻 212 c)

道世の兄弟子にあたる道宣の撰になる『広弘明集』は、上代文学においては漢籍における『文選』同様、仏教における模範文例集として、広く享受された。長安西明寺で成立した類聚編纂書のなかでも、もっとも代表的な『広弘明集』が、『法華説相図銘』の典拠としてはたらいているという事実は、注目に値する。『法華説相図銘』には、『広弘明集』のみならず、『広弘明集』をも含みこむ長安西明寺の類聚編纂書群が、ひとつの知的体系・出典体系として影響を与えていることが類推されるからである。

そこで、本稿はこれら『法華説相図銘』の出典群が、長安西明寺の類聚編纂書群に一致することに着目し、そこにみられる「塔」のオントロジを軸として両者の関係に考察を加え、長安西明寺の出典群が『法華説相図銘』において、出典としてどのようにはたらいたかをあきらかにすることを目的とする。

まず、『法華説相図銘』の本文および訓読文はつぎのとおりである(2)。『甚希有経』と一致する文字はゴチック体で表記した。十三字にわたる欠損部分は□、『甚希有経』による復原本文は[ ]内に示した。

【本文】

1惟夫霊[應]□□□□□□□□
2立称已乖□□□□□□□□
3真身然大聖□□□□□□□
4不圜形表刹[福]□□□□□□
5日夕畢功慈氏□□□□□□
6仏説若人起窣堵□□□□□[波其量下如]
7阿摩洛果以仏馱都□□□□[如芥子許]
8安置其中樹以表刹量□□□[如大針]
9上安相輪如小棗葉或造仏[像]
10 下如穢**麦此福無量**粤以奉為
11天皇陛下敬造千仏多宝仏塔
12 上厝舎利仲擬全身下儀並坐
13 諸仏方位菩薩囲繞聲聞独覚
14 翼聖金剛師子振威伏惟聖帝
15 超金輪同逸多真俗雙流化度
16 无央庶冀永保聖蹟欲令不朽
17 天地等固法界无窮莫若崇據
18 霊峯星漢洞照恒秘瑞巖金石
19 相堅敬銘其辞曰
20 遙哉上覚至矣大仙理帰絶妙
21 事通感縁釈天真像降茲豊山

22 鷲峯寶塔涌此心泉負錫来遊
23 調琴練行披林晏坐寧枕熟定
24 乗斯勝善同帰実相壹投賢劫
25 倶値千聖歳次降婁漆兎上旬
26 道明率引捌拾許人奉為飛鳥
27 清御原大宮治天下天皇敬造

【訓読文】

1惟るに夫れ霊[應]□□□□□□□□
2称を立つるは已に乖く□□□□□□□□
3真身なり。然るに大聖□□□□□□□
4不圓形表刹福□□□□□□
5日夕に功を畢んぬ。慈氏□□□□□□
6仏説きたまはく、「若し人、窣堵[波]を起つるに、[其の量、下は]
7阿摩洛果の[如くし]、仏馱都の[芥子許の如きを]以て
8其の中に安置し、樹つるに以て表刹の[量、大針の如きを]以てし、
9上に相輪の小棗葉の如きを安き、或いは仏[像]を造るに、
10 下は穠麦の如くすれば、此の福は無量なり」と。粤を以て、
11 天皇陛下の奉為に、敬みて千仏多宝仏塔を造りたてまつる。
12 上に舎利を厝き、仲に全身を擬り、下に並坐を儀ふ。
13 諸仏は方位し、菩薩は囲繞し、聲聞・独覚は
14 聖を翼け、金剛・師子は威を振ふ。伏して惟るに、聖帝は、
15 金輪を超え、逸多に同じ。真と俗と雙ながら流るるも化度
16 央くる无し。庶冀はくは、永く聖蹟を保ち、不朽にして
17 天地と固きを等しくし、法界のごとく窮まり无から令めんことを欲す。崇びて
18 霊峯に據り、星漢の洞く照らし、恒に瑞巖に秘むるには、金石の
19 相ひ堅きに若くは莫し。敬みて其の辞を銘して曰く、
20 遙かなる哉、上覚。至れる矣、大仙。
理は絶妙に帰し、事は感縁に通ず。
釈天の真像、茲の豊山に降り、
鷲峯の寶塔、此の心泉に涌く、
錫を負ひて来遊し、琴を調べて練行す。
林を披きて晏坐し、枕を寧めて熟定す。
斯の勝善に乗じて、同に実相に帰せむ。
壹に賢劫に投じて、倶に千聖に値はむ。
25 歳は降婁に次る漆兎の上旬に、
26 道明、捌拾許りの人を率引して飛鳥
27 清御原大宮に天の下治めたまひし天皇の奉為に敬みて造りたてまつる。

『法華説相図銘』の銘文冒頭1～11の欠損部については、夙く小野玄妙により、唐・玄奘訳『甚希有経』の引用文であることが指摘され、本文はつぎのように復原されている(3)。

仏説、若人起窣堵[波、其量下如]阿摩洛果、以仏馱都[如芥子許]、安置其中、樹以表刹量[如大針]、上安相輪如小棗葉。或造仏[像]、下如穬麦、此福無量。

唐・玄奘訳『甚希有経』には、これに類する表現がつぎの①～③、三箇所に確認される。

[A]唐・玄奘訳『甚希有経』(大正蔵六八九[六八八]／第十六巻 782 a)

①復有諸善男子或善女人、於諸如來般涅槃後、**起窣堵波、其量下如阿摩洛果、以佛馱都如芥子許、安置其中、樹以表刹量如大針、上安相輪如小棗葉。或造佛像、下如穬麥**、如是二種所生、福聚何者為多。

②復有諸善男子或善女人、於諸如來般涅槃後、**起窣堵波、其量下如阿摩洛果、以佛馱都如芥子許、安置其中、樹以表刹量如大針、上安相輪如小棗葉。或造佛像、下如穬麥**、如是二種所生、福聚何者為多。

③復有諸善男子或善女人、於諸如來般涅槃後、**起窣堵波、其量下如阿摩洛果、以佛馱都如芥子許安置其中、樹以表刹量如大針、上安相輪如小棗葉。或造佛像下如穬麥**、以前福聚、比此福聚、於百分中不及其一、於千分中亦不及一、於百千分數分算分計分喩分乃至鄔波尼殺曇分亦不及一。

『甚希有経』本文において、①②は完全に一致し、③にはやや小異がある。『法華説相図銘』復原本文は①②の本文に近い。『甚希有経』には復原部分以外にも『法華説相図銘』に一致する用語が多々見受けられ、小野玄妙の指摘したように、『法華説相図銘』の直接する典拠は『甚希有経』であったとみてよい。

3.『甚希有経』『仏説未曾有経』『無上依経』の関係

それでは、道宣の撰になる『広弘明集』の存在から類推されるように、道宣とおなじ門下にあり、ともに西明寺をささえた学匠・道世の撰になる『諸経要集』『法苑珠林』の「塔」のオントロジは、この出典関係を裏づけるであろうか。すなわち、『法華説相図銘』は長安西明寺の類聚編纂書のオントロジを反映し、その影響を受けていると考えてよいであろうか。

ところが、予測に反して、付表から知られるように、『諸経要集』《感報縁第四》、『法苑珠林』《感福部第四》には、『甚希有経』は引用されない。

その冒頭に配されるのは、つぎの『如小未曾有経』である。

[b]『如小未曾有経』

＊『諸経要集』《感報縁第四》

『如小未曾有經』云、(略)若有善男子善女人、作如上百千億大莊嚴殿、用施四方僧、其福雖多、然不如有人於佛般涅槃後、以如芥子、舍利起塔。大如菴摩勒果、其刹如針、上施槃蓋、如酸棗葉。若佛形像如麥大。勝前功德、滿足百倍不及、一千倍萬倍、百千萬倍、所不能及不可稱量。

＊『法苑珠林』《感福部第四》

『如小未曾有經』云、(略)若有善男子善女人、作如上百千億大莊嚴殿、用施四方僧、其福雖多、然不如有人於佛般涅槃後、以如芥子、舍利起塔。大如菴摩勒果、其刹如針、上施槃蓋、如酸棗葉。若佛形像如麥大。勝前功德、滿足百倍不及一、千倍萬倍、百千萬倍、所不能及不可稱量。

他の場合とおなじく、『諸経要集』『法苑珠林』両者の本文のあいだに異同はまったくない。ここ

にいう『如小未曾有経』は、後漢・失訳『仏説未曾有経』に該当するものと思われ、その本文を掲出するとつぎのようになる。

[B]後漢・失訳『仏説未曾有経』(大正蔵六八八[六八九]／第十六巻 781 a)

①若如来般涅槃後、復有善男子善女人、以如芥子舎利起塔、大如菴摩勒果、其刹如針、上施槃蓋、如酸　棗葉。若作佛像、乃至如麥麥。是二功德、何者為多。

②若佛　般涅槃後、復有善男子善女人、以如芥子舎利起塔、大如菴摩勒果、其刹如針、上施槃蓋、如酸　棗葉。若作佛像、乃至如麥麥。是二功德、何者為多。

③復有善男子善女人、於佛般涅槃後、以如芥子舎利起塔、大如菴摩勒果、其刹如針、上施槃蓋、如酸棗　葉。若造佛形像、乃至如麥麥。此功德滿足百倍不及、千倍萬倍百千萬億倍所不能及、不可稱量。

つぎに、付表に示したように、『諸経要集』《感報縁第四》、『法苑珠林』《感福部第四》の二番目に配されるのは、『無上依經』である。

[c]『無上依經』

＊『諸経要集』《感報縁第四》

又『無上依經』云、(略)若如來滅後、取佛舎利如芥子大、安立塔中、起塔如阿摩羅子大、戴刹如針大、露槃如棗葉大。造佛如麥子大。此二功德何者為勝。(略)若復有人。如來般涅槃後。取舎利如芥子。造塔如阿摩羅子大。戴刹如鍼。大露槃如棗葉大。造佛形像如麥子大。此功德勝前所說。百分不及一千萬億分乃至阿僧祇數分。所不及一。及譬喩所不能及。

＊『法苑珠林』《感福部第四》

又『無上依經』云、(略)若復有人如來般涅槃後、取舎利如芥子大、造塔如阿摩羅子大、戴刹如針大、露槃如棗葉大。造佛形像如麥子大。此功德勝前所説百分不及一。千萬億分乃至阿僧祇數分所不及一。(略)亦不如取舎利如芥子大。乃至造像如麥子大。此功德前所說百分千萬億分不及一分。乃至算數譬喩所不能及。

この『無上依経』に相当すると思われるものが、梁・真諦訳『仏説無上依経』校量功德品第一である。

[C]梁・真諦訳『仏説無上依経』校量功德品第一(大正蔵六六九／第十六巻 468 b・469 a)

①若如來滅後、取佛舎利如芥子大安立塔中、起塔如阿摩羅子大、戴刹如針大、露盤如棗葉大。造佛如麥子大、此二功德何者為勝。

②若復有人如來般涅槃後、取　舎利如芥子大、造塔如摩羅子大、戴刹如針大、露槃如棗葉大。造佛形像如麥子大、此功德於前所説、百分不及一、千萬億分乃至僧祇數分所不及一、分分不相及、譬喩所不能及。

③若有善男子善女人、佛涅槃後、取舎利如芥子大、造塔如阿摩羅子大、戴刹如針大、露槃如棗葉大。造佛如麥子大、此功德於前所説、百分不及一、千萬億分不及一乃至算數譬喩所不能及。

じつは、これら三つの経典は、相互に密接な関係を有する。三経のサンスクリット原典は未詳ではあるが、類似表現を多く共有する三経は、いずれも同本異訳の関係、すなわち別訳経とされているのである。

まず、最古の[B]後漢・失訳『未曾有経』は、二世紀頃の成立。『開元釈経録』第一にはつぎのようにあり、[A]唐・玄奘訳『甚希有経』と同本異訳であることが注記されている。

未曾有経一巻　初出與唐訳『甚希有経』等同本。(大正蔵二一五四／第巻 483 c)

つまり、同本異訳の三本のなかでも、『未曾有経』と『甚希有経』の関係は、きわめて近い。玄奘が『甚希有経』を訳出する際に、もっとも影響を受けた経典と見てまちがいないであろう。

一方、[B]『未曾有経』から派生したとされる[C]梁・真諦訳『無上依経』は二巻七品から成り、その校量功徳品第一が『未曾有経』『甚希有経』の序品部分に該当する。

『法華説相図銘』の出典である唐・玄奘訳『甚希有経』の訳出年代は、唐・貞観二三年(六四九)。『諸経要集』、総章元年(六六八)『法苑珠林』の成立よりもあきらかに古い。しかも、『諸経要集』『法苑珠林』撰者である道世は、玄奘の訳経の場につらなった経験をもつ。にもかかわらず、道世は『諸経要集』《感報縁第四》にも、『法苑珠林』《感福部第四》にも、玄奘が新たに訳出した『甚希有経』を抄出しなかった。

その間の事情は未詳と言わざるをえない。しかしながら、「塔」のオントロジの集大成ともいうべき『諸経要集』《感報縁第四》、『法苑珠林』《感福部第四》の冒頭には、玄奘訳『甚希有経』と成立上密接な関係を有する『仏説未曾有経』『無上依經』が掲出されていることは、注目されてよい。

『法華経』見宝塔品の千仏多宝塔の図様をえがきだした『法華説相図銘』を撰文するにあたって、確実に道宣撰『広弘明集』を参看していた銘文撰者が、「塔」のオントロジの集成として、道世撰『諸経要集』《感報縁第四》、『法苑珠林』《感福部第四》を参照した蓋然性は少なからず想定されうるであろう。この両書によって、『法華説相図銘』は、造塔の功徳を称揚する[B]後漢・失訳『未曾有経』と[C]梁・真諦訳『無上依経』の存在を知ったかもしれない。しかしながら、玄奘による新訳経典の伝来という唐代の新仏教を接種していた時期にあって、旧訳に属する[B]後漢・失訳『未曾有経』と[C]梁・真諦訳『無上依経』は顧みられなかったのではないか。これらと内容的にはまったくおなじ造塔の功徳を述べる経典として、さらには、玄奘による新訳経典として、『長谷寺銅版法華説相図銘』がきわめて意識的に選びとったのが、[A]唐・玄奘訳『甚希有経』ではなかったか。

もとより、長安西明寺の創建に尽力し、創建当初の西明寺に入寺したのは、玄奘三蔵であった。玄奘と共に西明寺に入寺した道宣・道世が、その著述活動を通して長安西明寺の類聚編纂書のオントロジを形成するのと同等の重みをもって、玄奘による新訳経典の訳出事業と、これによって生みだされた新訳経典の伝来が、日本の仏教界に深い影響をあたえたことを推測させるひとつの可能性として指摘しておく。

注

(1)拙稿「長安西明寺の類聚編纂書のオントロジとその受容一一」(相田満編『和漢古典学のオントロジ』1、二〇〇四年三月)

(2)拙稿「長谷寺銅版法華説相図銘」(上代文献をよむ会編『古京遺文注釈』おうふう、一九八九年二月)

(3)小野玄妙『仏教之美術及歴史』(大正五年十一月)

『法苑珠林』巻三七・敬塔篇第三十五(此有六部) 総章元年(668)十月、西明寺沙門釈道世撰・大正蔵第五十三巻 No. 2122	『諸経要集』巻第三・敬塔部第二(此有七縁) 成立年代不明、西明寺沙門道世集・大正蔵第五十四巻 No. 2123
《述意部第一》 敬惟、如來應現、妙色顯於三千。正覺韜光、遺形傳於八萬。是以塔踊靈山、影留石窟。刻檀畫[疊*毛]之儀、鑄金鏤玉之状、全身碎身之跡、聚塔散塔之奇、而光曜重昏、福資含識。致使英聲遐美、邪徒結信、肇啓育王之始、終傳大唐之初。自歴代繁興、神化非一。故經曰、「正法住、正法滅」、意存茲乎。	《述意縁》 敬惟、如來應現、妙色顯於三千。正覺韜光、遺形傳於八萬。是以塔踊靈山、影留石窟。刻檀畫疊之儀、鑄金鏤玉之状、全身碎身之跡、聚塔散塔之奇、而光曜重昏、福資含識。致使英聲遐美。邪徒結信。肇啓育王之始、終傳大唐之初。自歴代繁興、神化非一。故經曰、「正法住、正法滅」、意在茲乎。
《引證部第二》 ①如觀佛三昧經云。佛留影石室。在那乾呵羅國毒龍池側。佛坐龍石室窟中。為龍作十八變。踊身入石。猶如明鏡。在於石内映現於外。遠望則見近望不現。諸天百千。供養佛影亦說法(迄今不滅待至彌勒) ②又大集經云。忉利天城東照明園中有佛髮塔。城南麤澀園中有佛衣塔。城西歡喜園中有佛鉢塔。城北駕御園中有佛牙塔 ③又智度論云。天帝釋取菩薩髮及衣。於天上城東門外立佛髮塔衣塔 ④又育王傳云。王得信心問道人曰。我從來殺害不必以理。今修何善得免斯殃。答曰。唯有起塔供養眾僧。救諸囚徒賑濟貧乏(故譬喻經云。王宮内常以四事供養二萬沙門。盡心備禮。不可具述)。王曰。何處可起塔。道人即以神力左手揜日光。作八萬四千道。散照閻浮提。所照之處皆可起塔。今諸塔處是也。時王欲建舍利塔將四部兵眾至王舍城。取阿闍世王佛塔中舍利。還復修治此塔與先無異。如是更取七佛塔中舍利。至眾摩村中。時諸龍王將王入龍宮中。王從龍索舍利供養。龍即分與之。時王作八萬四千金銀琉璃頗梨篋盛佛舍利。又作八萬四千寶瓶以盛此篋。又作無量百千幢幡繖蓋。使諸鬼神各持舍利供養之具。敕諸鬼神言。於閻浮提至於海際。城邑聚落滿一億家者。為世尊立塔。時有國名德叉尸羅。有三十六億家。彼國人語鬼神言。可三十六篋舍利與我等起立佛塔。王作方便國中人少者令分與彼。令滿家數而立為塔。時巴連弗邑有上座。名曰耶舍。王詣彼所白上座曰。我欲一日之中立八萬四千佛塔遍此閻浮提。意願如是。時彼上座白言。善哉大王。剋後十五日日正食時。令此閻浮提一時起諸佛塔。如是依數。乃至一日之中立八萬四千塔。世間人民興慶無量。共號曰阿育王塔 ⑤又大阿育王經云。八國共分舍利。阿闍世王分數得八萬四千。又別得佛口髭。還國道中逢難。頭禾龍王從其求舍利分。阿闍世王不與。便語言。我是龍王力能壞汝國土。阿闍世王怖畏。即以佛髭與之。龍還於須彌山下高八萬四千里。於下起水精塔。阿闍世王	《引證縁》 ①如觀佛三昧經云。佛留影石室。在那乾呵羅國毒龍池側。佛坐龍石室窟中。為龍作十八變踊身入石。猶如明鏡。在石内映現於外。遠望則見。近望不現。諸天百千供養佛影。亦現說法(迄今不滅傳至彌勒) ②又大集經云。忉利天城東。照明園中。有佛髮塔。城南麤澀園中有佛衣塔。城西歡喜園中有佛鉢塔。城北駕御園中有佛牙塔 ③又智度論云。天帝釋取菩薩髮及衣。於天上城東門外。立佛髮塔衣塔 ④又育王傳云。王得信心問道人曰。我從來殺害不必以理。今修何善得免斯殃。答曰。唯有起塔供養眾僧。救諸徒囚。賑濟貧乏(故譬喻經云王宮内常以四事供養二萬沙門盡心敬禮不可具述)王曰。何處可起塔。道人即以神力左手掩日光。作八萬四千道。散照閻浮提。所照之處皆可起塔。今諸塔處是也。時王欲建舍利塔。將四部兵眾至王舍城。取阿闍世王佛塔中舍利還。復修治此塔與先無異。如是更取七佛塔中舍利。至眾摩村中。時諸龍王將王入龍宮中。王從龍索舍利供養。龍即分與之。時王作八萬四千金銀琉璃頗梨篋。盛佛舍利。又作八萬四千寶瓶。以盛此篋。又作無量百千幡幢傘蓋。使諸鬼神各持舍利供養之具。敕諸鬼神。言於閻浮提。至於海際城邑聚落。滿一億家者。為世尊立塔。時有國名著叉尸羅。有三十六億家。彼國人語鬼神言。可三十六篋舍利與我等起立佛塔。王作方便。國中人少者令分與彼。令滿家數而立為塔。時巴連弗邑有上座。名曰耶舍。王詣彼所白上座曰。我欲一日之中立八萬四千佛塔。遍滿此閻浮提。意願如是。時彼上座自言。善哉大王。剋後十五日日正食時。令此閻浮提一時起諸佛塔。如是依數。乃至一日之中立八萬四千塔。世間人民興慶無量。共號曰阿育王塔 ⑤又大阿育王經云。八國共分舍利。阿闍世王分數得八萬四千。又別得佛口髭還國。道中逢難頭和龍王。從其求舍利分。阿闍世王不與。便語言我是龍王力能壞汝國土。阿闍世怖畏。即以佛髭與之。龍還於須彌山下高八萬四千里。於下起水精塔。阿闍世王得還國。以

得還國。以紫金函盛舍利。作千歲燈火於五殑伽河水中置塔埋之。後阿育得其國土。王娶夫人。身長八尺。髮亦同等。眾相具足。王令相師觀之。師言。當為王生金色之子。王即拜為第二夫人。後還有身。足滿十月。王有緣事宜出外行。王太后妒嫉。便作方便共欲除之。募覓豬母即應產者。語第二夫人言。卿是年少甫爾始產不可露面視天。以被覆面。即生金子光照宮中。盜持兒去殺之即以豬子著其邊。便罵言。汝云當為王生金色之子。何故生豬。便取輪頭拍。囚內後園中令服菜茹。王還聞之不悅。久久之後。王出行園見之憶念迎取歸宮。第二夫人漸得親近。具說情狀。王聞驚怖。即殺八萬四千夫人。阿育王後於城外。造立地獄治諸罪人。佛知王殺諸夫人應墮地獄。即遣消散比丘化王。王發信寤問比丘言。殺八萬四千夫人罪可得贖不。道人言。各為人起一塔。塔下著一舍利。當得脫罪耳。王即尋覓阿闍世王舍利。有國相父。年百二十。將五百人取本舍利。王得大喜。即分與鬼神。各還所部。令一日一時同戴八萬四千剎。諸鬼神言。多隔山障不得相知。王言。汝曹但還治槃護剎安鈴。我當使阿修倫以手摸日四天下亦同時震

⑥又阿育經云。塔成造千二百織成幡及雜華。未得懸幡。王身崩沒。塔成已六日。王請僧至園供養。時有優波崛多羅漢。將一萬八千阿羅漢受王請。尊者崛多顏貌端正身體柔軟。而王體醜陋肌膚麤澀。尊者即說偈言、

我行布施時、淨心好財物。不如王行施、以沙施於佛。

王告大臣。我以沙施佛報獲如是。云何而不修敬於世尊。王後尋佛弟子迦葉阿難等所有佛在世時弟子塔廟。躬到塔所具展哀情。責心修敬。各興種種供養更立大塔。各捨十萬兩珍寶供養是塔。次至薄拘羅塔應當供養。王問彼有何功德。崛多尊者答曰。彼無病第一。乃至不為人說一句法寂默無言。王曰。以一錢供養。諸臣白王言。功德既等。何故於此供養一錢。王告之曰。聽吾所說偈、

雖除無明癡、智慧能鑒察。雖有薄拘羅、於世何所益。

時彼一錢還來至王所。時大臣輩見是希有事。異口同音讚彼。嗚呼尊者少欲知足。乃至不須一錢。王多供養菩提樹不絕。夫人名曰低舍羅絺多。作念。王極愛念於我。念王今捨我珍寶至菩提樹間。我方便殺樹令死。王不得往可得與我相娛。夫人即遣人以熱乳澆之。樹枯葉落。王聞是語悶迷躄地。夫人見王憂愁不樂。當悅王心。白王曰。若無彼樹我命亦無。如來於彼樹得道。彼樹既無。何用活耶。復以冷乳灌之。彼樹更生。王聞歡喜詣於樹下。目不暫捨。以千甕香湯漑灌菩提樹。倍復嚴好增長茂盛。後王潔淨身心。手執香鑪在於殿上。向西方作禮心念口言。如來賢聖弟子在諸方者。憐愍我故。受我供養。如是語時。有三十萬比丘悉來集。彼大眾中十萬是阿羅漢。二十萬是學人及凡夫。宮人太子群臣共王所作功德無量不可述盡

⑦又雜阿含經云。阿育王問比丘言。誰於佛法中能行大施。諸比丘言。給孤獨長者最行大施。王問彼施幾許。比丘答曰。以捨億千金。王聞已。彼長者尚能捨億千金。我今為王何緣復以億千金施。當以億百千金施。乃至用私藏盡。將此閻浮提夫人婇女太子大臣。總施與聖僧。後用四十億金。還復贖取。如是計校總用九十六億千金。乃至王得重病自知命盡。常願以億百千金作功德。今願不滿便就後世。唯減四億未滿。王即辦諸珍寶送

紫金函盛舍利。作千歲燈火。於五恒河沙水中。起塔葬埋之。後阿育得其國土。王娶夫人。身長八尺髮亦周等。眾相具足。王令相師觀之。師言。當為王生金色之子。王即拜為第二夫人。後遂有身足滿十月。王有緣事宜出外行。太后妒嫉。便作方便共欲除之。募覓豬母即應產者。語第二夫人言。卿是年少甫爾始產。不可露面視天。以被覆面。即生金子光照宮中。盜持而去殺之。即以豬子著其邊。便罵言。汝云。當為王生金色之子。何故生豬。便取輪頭拍囚內後園中令服菜。王還聞之不悅。久久之後王出行園。見之憶念迎取歸宮。第二夫人漸得親近。具說情狀。王聞驚怪。即殺八萬四千夫人。阿育王後於城外。造立地獄治諸罪人。耶舍知王殺諸夫人應墮地獄。即遣消散比丘化王。令發信悟。問比丘言。殺八萬四千夫人。罪可得贖不。道人言。各為之起一塔。塔下著一舍利。當得脫罪耳。王即尋覓阿闍世王舍利。有國相父年百二十。將五百人取本舍利。王得大喜。即分與鬼神。各還所部。令一日一時同載八萬四千剎。諸鬼神言。多隔山部不得相知。王言。汝曹但還。治槃護剎安鈴。我當使阿修輪以手摸日。四天下亦同時辰

⑥又阿難經云。塔成造千二百。織成幡及雜花。未得懸幡。王恐身崩。塔成已六日。王請僧王園供養。時有優波崛多羅漢。將一萬八千阿羅漢。受王請。尊者崛多。顏貌端正身體柔軟。而王體醜陋肌膚麤澀。尊者即說偈言、

我行布施時、淨心好財物。不如王行施、以沙施於佛。

王告大臣。我以沙施佛獲報如是。云何而不修敬於世尊。王後尋佛弟子迦葉阿難等所有佛在世時弟子塔廟。躬到塔所。具展哀情責心修敬。各興種種供養。更立大塔。各捨十萬兩珍寶供養是塔。次至薄拘羅塔應當供養。王問。彼有何功德。崛多尊者答曰。彼無病第一。乃不為人說一句法。寂默無言。王曰。以一錢供養。諸臣白王言。功德既等。何故於此供養一錢。王告之曰。聽吾所說偈

雖除無明癡、智慧能鑒察。雖有薄拘羅、於世何所益。

時彼一錢還來至王所。時大臣輩見是希有事。異口同音讚彼。嗚呼尊者少欲知足。乃至不須一錢。王及大臣供養菩提樹不絕。夫人名曰低舍羅絺多作念。王極愛念於我。念王今捨我珍寶至菩提樹間。我方便殺樹令死王不得往。可得與我相娛。夫人即遣人以熱乳澆之。樹枯葉落。王聞是語悶迷躄地。夫人見王憂愁不樂。當悅王心。白王曰若無彼樹我命亦無。如來於彼樹得道。彼樹既無何用活耶。復以冷乳灌之。彼樹更生。王聞歡喜詣於樹下。目不暫捨。以千瓮香湯漑灌菩提樹。倍復嚴好增長茂盛。後王潔淨身心。手執香鑪在於殿上。四方作禮心念口言。如來賢聖弟子在諸方者。憐愍我故受我供養。如是語時。有三十萬比丘悉來集。彼大眾中十萬是阿羅漢。二十萬是學人。及凡夫宮人太子群臣。共王所作功德無量。不可述盡。

⑦又雜阿含經云。阿育王問比丘言。誰於佛法中能行大施。諸比丘言。給孤獨長者最行大施。王問。彼施幾許。比丘答曰。以捨億千金。王聞已。彼長者尚捨億千金。我今為王。何緣復以億千金施。當以億百千金施。乃至用私藏盡。將此閻浮提夫人婇女太子大臣。總施與聖僧。後用四十億金。還復贖取。如是計校。總用九十六億千金。乃至王得重病自知命盡。常願以億百千金作功德。今願不滿便就後世。唯減四億未滿。王即辦諸珍寶。送與

與雞頭摩寺。乃至以半阿摩勒果。送與僧。禮拜僧足問訊大聖。眾等我領此閻浮提。是我所有。今者頓盡。不得自在。唯此半果哀愍納受令我得福。上座耶舍令研磨著石榴奠中行之。一切皆得周遍。王復問傍臣曰。誰是閻浮提王。諸臣啟言。大王是也。時王從臥起而坐。顧望四方合掌作禮。念諸佛功德。心念口言。我今復以此閻浮提施與三寶。時王書紙上而封緘之。以齒印印之。作如是事畢。即便無常。爾時太子及諸人民興種種供養葬送。如王之法而闍維之

⑧又法益經云。今是大地屬於三寶。云何而立太子為王。諸臣聞已。議出四億金。送與寺中將贖其地

⑨又善見論云。阿育王以金錢九十六億起八萬四千寶塔復大種種布施

雞頭摩寺。乃至以半阿摩勒果。送與僧禮拜僧足。問訊大聖眾等。我領此閻浮提。是我所有。今者頓盡不得自在唯此半果哀愍納受。令我得福。上座耶舍令研磨著石榴奠中行之。一切皆得周遍。王復問傍臣曰。誰是閻浮提王。諸臣啟王言。大王是也。時王從臥起而坐。顧望四方合掌作禮。念諸佛功德心念口言。我今復以此閻浮提施與三寶。時王書紙上而封緘之。以齒印印之。作如是事畢即便無常。爾時太子及諸人民。興種種供養葬送。如王之法而闍維之。

⑧又法益經云。今是大地屬於三寶。云何而立太子為王。諸臣聞已。載出四億金。送與寺中將贖其地。

⑨又善見論云。阿育王以金錢九十六億。起八萬四千寶塔。復大種種布施。

《興造部第三》

述曰。上來所引經論、興置所由、其已知乎。然未識塔義是何。復有幾種。所為之人復通凡不。答曰。梵漢不同翻譯前後。致有多名文有訛正。所云塔者。或云塔婆。此云方墳。或云支提。翻為滅惡生善處。或云斗藪波。此云護讚。若人讚歎擁護歎者。西梵正音名為窣堵波。此土云廟。廟者貌也。即是靈廟也。安塔有其三意。一表人勝。二令他信。三為報恩。若是凡夫比丘有德望者亦得起塔。餘者不合。若立支提有其四種。一生處。二得道處。三轉法輪處。四涅槃處。諸佛生處及得道處。此二定有支提。生必在阿輸柯樹下。此云無憂樹。此是夫人生太子之處。即號此樹為生處支提。如來得道在於菩提樹下。即呼此樹下為得道支提。如來轉法輪及涅槃處。此二無定。初轉法輪為五比丘在於鹿苑。縱廣各二十五尋。一尋八尺。古人身大故。一尋八尺合二十丈。今天竺人處處多立轉法輪。取一好處而依此量。豎三柱安三輪。表佛昔日三轉法輪相。即名此處為轉法輪支提。如來入涅槃處安置舍利。即名此處為涅槃支提。現今立寺名涅槃寺。此則為定。若據舍利處處起塔。則為不定。此四亦名窣堵波。

①又毘婆沙論云。若人起大塔如來生處轉法輪處。若人取小石為塔。其福等前。大塔所為尊故。若為如來大梵起大塔。或起小塔。以所為同故其福無量。

②又阿含經云。有四種人應起塔。一如來。二辟支佛。三聲聞。四輪王。

③又十二因緣經云。有八人得起塔。一如來。二菩薩。三緣覺。四羅漢。五那含。六斯陀含。七須陀洹。八輪王。若輪王已下起塔安一露槃。見之不得禮。以非聖塔故。初果二露槃。乃至如來安八露槃。八槃已上並是佛塔

④又僧祇律云。初起僧伽藍時。先規度好地將作塔處。不得在南。不得在西。應在東。應在北。不侵佛地僧地。應在西在南作僧房。佛塔高顯處作。不得塔院內浣染曬衣唾地。得為佛塔四面作龕。作師子鳥獸種種綵畫。內懸幡蓋。得為佛塔。四面造種園林華果。

《興造緣第三》

述曰。上來所引經論。興置所由。其已知乎。然未識塔義是何。復有幾種。所為之人復通凡不。答曰。梵漢不同。翻譯前後。致有多名。文有訛正。所云塔者。或云塔婆。此云方墳。或云支提。翻為滅惡生善處。或云斗藪波。此云護讚。如人讚歎擁護歎者。西梵正音。名為窣堵波。此云廟。廟者貌也。即是靈廟也。安塔有其三意。一表人勝。二令他信。三為報恩。若是凡夫比丘有德望者。亦得起塔。餘者不合。若立支提。有其四種。一生處。二得道處。三轉法輪處。四涅槃處。諸佛生處及得道處。此二定有支提。生必生阿輸柯樹下。此云無憂樹。此是夫人生太子之處。即號此樹為生處支提。如來得道。在於菩提樹下。即呼此樹下為得道支提。如來轉法輪。及涅槃處。此二無定。初轉法輪為五比丘。在於鹿苑。縱廣各二十五尋。一尋八尺。古人身大故。一尋八尺。合二十丈。今天竺人。處處多立轉法輪。取一好處而依此量。豎三柱安三輪。表佛昔日三轉法輪相。即名此處。為轉法輪支提。如來入涅槃處。安置舍利。即名此處為涅槃支提。現今立寺名涅槃寺。此則為定。若據舍利處處起塔。則為不定。此四立名窣堵波。

①又毘婆沙論云。若人起大塔如來生處。轉法輪處。若人取小石為塔。其福等前大塔。所為尊故。若為如來大梵起大塔。或起小塔。以所為同故其福無異。

②又阿含經云。有四種人應起塔。一如來。二辟支佛。三聲聞。四輪王。

③又十二因緣經云。有八人得起塔。一如來。二菩薩。三緣覺。四羅漢。五那含。六斯陀含。七須陀洹。八輪王。若輪王已下起塔。安一露槃。見之不得禮。以非聖塔故。初果二露槃。乃至如來安八露槃。八槃已上並是佛塔

④又僧祇律云。初起僧伽藍時先規度地。將作塔處不得在南。不得在西。應在東應在北。不侵佛地。僧地應在西作。南作僧房。佛塔高顯。處作。不得塔院內浣染曬衣唾地。得為佛塔四面作龕。作師子鳥獸種種綵畫。內懸幡蓋得為佛塔四面造種種園林花果。是中出花

是中出華應供養塔。若樹檀越自種檀越。言是中華供養佛果與僧食。佛言。應從檀越語。若華多。者得與華。鬘家。語言。爾許華作鬘。與我餘者。與我爾許直。若得直得用然燈買。香以供養佛兼得治塔若直多者得置佛無盡物中。若人言佛無貪怒癡但自莊嚴用是華果而受樂者。得罪報重。佛言。亦得作支提。有舍利者名塔。無舍利者名支提。如佛生處得道處轉法輪處佛泥洹處菩薩像辟支佛像佛腳跡處。此諸支提得安佛華蓋供養。若供養中上者供養佛塔。下者供養支提。若猝風雨來應收供養具。隨近安之。不得言我是上座我是阿練若乞食大德等。得越毘尼罪。若塔僧物賊來急時不得藏棄。佛物莊嚴佛像。僧座具。應敷安置種種飲食。令賊見相。若起慈心。賊問比丘莫畏出來年少應看。若賊猝至不得藏物者。應言一切行無常。作是語已捨去。是名難法。

《感福部第四》

①如小未曾有經云。佛告阿難。若有一人盡四天下滿中草木。皆悉為人。得四道果及辟支佛。盡壽四事供養所須具足。至滅度後一一起塔。香華幢旛寶蓋供養。復造帝釋大莊嚴殿。用八萬四千寶柱。八萬四千寶窗。八萬四千天井寶窗。八萬四千樓櫓館閣。四出圍繞眾寶校飾。若有善男子善女人。作如上百千億大莊嚴殿。用施四方僧。其福雖多。然不如有人於佛般涅槃後。以如芥子舍利起塔大如菴摩勒果。其剎如針。上施槃蓋。如酸棗葉。若佛形像如[麩-夫+廣]麥大。勝前功德滿足百倍不及一。千倍萬倍百千萬倍所不能及不可稱量。阿難。當知如來。無量功德。戒分定分智慧分解脫分解脫知見分無量功德。有大神通變化及六波羅蜜。如是等無量功德。

②又無上依經云。阿難向佛合掌而作是言。我於今日入王舍城乞食。見一大重閣莊嚴新成內外宛密。若有清信人布施四方僧并具四事。若如來滅後取佛舍利如芥子大。安立塔中。起塔如阿摩羅子大。戴剎如針大。露槃如棗葉大。造佛如麥子大。此二功德何者為勝。佛告阿難。如滿四天下四果聖人及辟支佛。如甘蔗林竹荻麻田等。若有一人盡壽供養四事具足。及入涅槃後悉起大塔。供養然燈燒香衣服幢幡等。阿難。於意云何。是人功德多不。阿難言。甚多。世尊。阿難且致。又如帝釋天宮住處。有大飛閣名常勝殿。種種寶莊各八萬四千。若有清信男子女人。造作如是常勝寶殿。百千拘胝施與四方眾僧。☆若復有人如來般涅槃後。取舍利如芥子大。造塔如阿摩羅子大。戴剎如針大。露槃如棗葉大。造佛形像如麥子大。此功德勝前所說百分不及一。千萬億分乃至阿僧祇數分所不及一。何以故。如來無量功德故。縱碎娑婆世界末為微塵。以此次第悉是四沙門果及辟支佛。若有清信男女盡形供養。及以滅後起塔供養。亦不如取舍利如芥子大。乃至造像如麥子大。此功德前所說百分千萬億分不及一分。乃至算數譬喻所不能及。如是阿難。一切如來昔在因地。知眾生界自性清淨。客塵煩惱之所污濁。然不入眾生清淨界中。能為一切眾生說深妙法。除煩惱障。不應生下劣心。以大量故。於諸眾生尊重心。起大師敬。起般若。起闍那。起大悲。依此五法。菩薩得入阿鞞跋致位(此云不退)依如實知證大方便得阿耨菩提。

③又涅槃經云。若於佛法僧供養一香燈。乃至獻一華則生不動國。善守佛僧物塗掃僧佛

應供養塔。若樹檀越自種。檀越言。是中花供養佛。果與僧食。佛言。應從檀越語。若花多者。得與花鬘家。語言爾許花作鬘與我。餘者與爾許直。若得直得用。然燈買香以供養佛。兼得治塔若。直多者。得置佛無盡物中。若人言佛無貪怒癡。但自莊嚴。因是花果而受樂者。得罪報重。佛言。亦得作支提。有舍利者名塔。無舍利者名支提。如佛生處。得道處。轉法輪處。佛泥洹處。得作菩薩像。辟支佛像。佛腳跡處。此諸支提得安佛華蓋供養。若供養中。上者供養佛塔。下者供養支提。若卒風雨來應收供養。具隨近安之。不得言我是上座。我是阿練若乞食大德等。得越毘尼罪。若塔僧物賊來急時不得藏舉。佛物應莊嚴佛像。僧座具應敷。安置種種飲食。令賊見相。若起慈心賊問。比丘莫畏出來。年少應看。若賊卒至不得藏物者。應言一切行無常。作是語已捨去。是名難法。

《感報緣第四》

②如小未曾有經云。佛告阿難。若有一人。盡四天下滿中草木。皆悉為人。得四道果及辟支佛。盡壽四事供養所須具足。至滅度後一一起塔。香華幢幡寶蓋供養。復造帝釋大莊嚴殿用八萬四千寶柱。八萬四千寶。窗八萬四千天井寶窗。八萬四千樓櫓館閣。四出圍繞眾寶校飾。若有善男子善女人。作如上百千億大莊嚴殿。用施四方僧。其福雖多。然不如有人於佛般涅槃後以如芥子舍利起塔。大如菴摩勒果。其剎如針。上施槃蓋如酸棗葉。若佛形像如[麩-夫+廣]麥大。勝前功德滿足百倍。不及一千倍萬倍。百千萬倍所不能及。不可稱量。阿難當知。如來無量功德。戒分。定分。智慧分。解脫分。知見解脫分。無量功德有大神通變化。及六波羅蜜。如是等無量功德。

②又無上依經云。阿難向佛合掌而作是言。我於今日入王舍乞食。見一大重閣莊嚴新成內外宛密。若有清信人布施四方僧。并見四事。若如來滅後取佛舍利如芥子大。安立塔中。起塔如阿摩羅子大。戴剎如針。大露槃如棗葉大。造佛如麥子大。此二功德何者為勝。佛告阿難。如滿四天下四果聖人及辟支佛。如甘蔗林竹荻麻田等。若有一人盡壽供養。四事具足。及入涅槃後悉起大塔。供養然燈燒香衣服幢幡等。阿難。於意云何。是人功德多不。阿難言。甚多世尊。阿難且置。又如帝釋天宮住處。有大飛閣名常勝殿。種種寶莊各八萬四千。若有清信男子女人。造作如是常勝寶殿。百千拘胝。施與四方眾僧。☆若復有人。如來般涅槃後。取舍利如芥子。造塔如阿摩羅子大。戴剎如鍼。大露槃如棗葉大。造佛形像如麥子大。此功德勝前所說。百分不及一千萬億分乃至阿僧祇數分。所不及一。及譬喻所不能及。何以故。如來無量功德故。縱碎娑婆世界末為微塵。以此次第悉是四沙門果。及辟支佛。若有清信男女。盡形供養。及以滅後起塔供養。亦不如取舍利如芥子大。乃至造像如麥子大。此功德勝前所說。百分千萬億分不及一分。乃至算數譬喻所不能及。如是阿難。一切如來。昔在因地知眾生界自性清淨。客塵煩惱之所污濁。然不入眾生清淨界中。能為一切眾生說深妙法。除煩惱障。應生下劣心。以大量故於諸眾生生尊重心。起大師敬。起般若。起闍那。起大悲。依此立法。菩薩得入阿鞞跋致位(此云不退)依如實知證大方便。得阿耨菩提。

③又涅槃經云。若於佛法僧供養一香燈。乃至獻一花。則生不動國。善守佛僧物。塗掃佛

地。造像塔如母指。常生歡喜心。亦生不動國。此即淨土常嚴不為三災所動也	僧地。造像塔如拇指。當生歡喜心。亦生不動國。此即淨土常嚴不為三災所動也	
④又僧祇律云。佛於拘薩羅國游行時。婆羅門耕地見世尊過。持牛杖拄地禮佛。世尊見已便發微笑。諸比丘白佛、「何因緣故笑。唯願欲聞」。佛告諸比丘、「是婆羅門、今禮二佛」。諸比丘白言、「何等二佛」。佛告比丘、「禮我杖下有迦葉佛塔」。諸比丘白佛、「願見迦葉佛塔」。佛告諸比丘、「汝從此婆羅門、索土塊并是地。即便索之」。時婆羅門便與之。得已。爾時世尊即現出迦葉佛七寶塔、高一由延。其面廣半由延。婆羅門見已。便白佛言。「我姓迦葉。是我迦葉土堆」。爾時世尊即於彼處、作迦葉佛塔。諸比丘白佛、「我得授泥不」。佛言、「得授」。即說偈言、 真金百千擔、持用行布施。不如一團泥、敬心治佛塔。 爾時世尊敬過去佛故。便自作禮。諸比丘亦禮佛說偈言、 人等百千金、持用行布施。不如一善心、恭敬禮佛塔。 爾時比丘即持香華來奉世尊。敬過去佛故。即持供養塔。佛即說偈言 百千車真金、持用行布施。不如一善心、香華供養塔。 爾時大眾雲集。佛告舍利弗。汝為諸人說法。佛說偈言、 百千閻浮提、滿中真金施。不如一法施、隨順令修行。 爾時座中有得道者。佛說偈言。 百千世界中、滿中真金施。不如一法施、隨順見真諦。	×	
⑤又法句喩經云。昔佛在世時。遣一羅漢。名曰須曼。持佛髮爪至罽賓國南山之中造佛塔。寺中常有五百羅漢。旦夕燒香繞塔禮拜。時山中有五百獼猴。見僧繞塔禮拜供養。即共負石學僧作塔繞之禮拜。于時天雨山水漲漲。五百獼猴一時沒死。生忉利天。七寶宮殿巍巍無量。衣食自然快樂無極。既得生天各自念言。我等何緣得來生此。即以天眼觀見前身。作其獼猴。由學眾僧戲為作塔。山水所漂命終生此。即共相將齎持香華。從天下來供養死屍。迴詣佛所禮拜問訊。佛為說法。五百天子一時皆得須陀洹果。既得果已還歸天上。獼猴學僧戲為作塔。尚獲福報巍巍乃爾。豈況於人信心造塔寧無果報	×	
⑥又譬喩經云。昔佛涅槃後。阿育王國有迦羅越。其人福德世間希有。意有所須應念即至。其家舍宅七寶所成。閤內婦女端正少雙。晝夜娛樂快樂無極。其人信心每常供養二萬餘僧。阿育王聞便召見之。而語之言。聞卿大富家有何物。即答王言。家無所有。王不信之。便遣人看。使至唯見門閤七重舍宅堂宇。七寶莊嚴巍巍無量。使入室中不見餘物。唯見婦女端正少雙。使見即還具以白王。王意漸解。時迦羅越知王解已。便於王前以手東指。即時空中七寶雨下不可限量。指餘三方亦復如是。王見乃知是大福德。王即詣寺請問此事。寺有上座得阿羅漢三明六通。王問上座。此迦羅越宿殖何福。所須自然應念即至。上座答王。乃往過去九十一劫。毘婆尸佛入涅槃後。迦羅越爾時與其四人同共造塔。用心偏殷。造塔成已。復以七寶及取好花上塔頭上。四面散下而以供養。發誓願言。使我世世食福自然常不斷絕。緣是功德。從是以來九十一劫不墮惡道。天上人中食福自然快樂無極。爾時但願食福無盡不願度脫。故至今日唯受勝福未得道跡	×	

⑦又大悲經云。佛告阿難。若人樂著三有果報。於佛福田若行布施諸餘善根。願我世世莫入涅槃。以此善根不入涅槃。無有是處。是人雖不樂求涅槃。然於佛所種諸善根。我說是人必入涅槃也	×	
⑧又百緣經云。昔佛在世時。舍衛城中有一長者。其家巨富財寶無量不可稱計。生一男兒端正殊妙世所希有。其兒兩手各把金錢。取已還生無有窮盡。父母歡喜因為立字。名曰寶手。年漸長大慈心孝順。好喜布施。有人來乞申其兩手出好金錢。尋以施之。後與諸人出城游觀。前到祇洹見佛相好。心懷歡喜頂禮請佛及比丘僧。願受我供。阿難語言。設供須財。於是寶手即申兩手。金錢雨落。須臾滿地。積聚過人。佛敕阿難。令為營供。飯食訖已。佛為說法得須陀洹。歸辭父母求乞出家。既出家已得阿羅漢果。阿難見已而白佛言。寶手比丘宿殖何福生於豪族。手出金錢取無窮盡。又值世尊出家得道。佛告阿難。昔迦葉佛入涅槃後。有迦翅王。收其舍利造四寶塔。時有長者見豎塔廟心生隨喜持一金錢安著塔下。發願而去。緣是功德不墮惡道。天上人中常有金錢受福快樂。乃至今者遭值於我出家得道	×	
⑨又百緣經云。佛在世時。迦毘羅衛城中有一長者。財寶無量。其婦懷妊生一男兒。容貌端正世所希有。然其生時頂上自然有摩尼寶蓋遍覆城上。父母歡喜。因為立字。名曰寶蓋。漸長值佛出家得羅漢果。佛告比丘。乃往過去九十一劫。有佛出世號毘婆尸。遷神入涅槃後。有國王名槃頭末帝。收取舍利造四寶塔。高一由旬。而供養之。時有商人入海採寶安隱得來。即以摩尼寶珠蓋其塔頭發願而去。緣是功德九十一劫不墮惡趣。天上人中常有寶蓋。隨共而生。乃至今者得值於我出家獲道。聞佛所說歡喜奉行	×	
⑩又百緣經云。佛在世時迦毘羅衛城中。有一長者財寶無量不可稱計。其婦生一男兒。端正殊妙世所希有。頭上自然有摩尼珠。時父母因為立字。名曰寶珠。年漸長大見佛出家成阿羅漢果。入城乞食。時寶珠故在頭上。城中人民怪其所以。競來看之。深自慚恥還歸所止。白言。世尊。我此頭上有此寶珠不能使去。今者乞食為人蚩笑。願佛世尊見卻此珠。佛告比丘。汝但語珠。我今生分已盡更不須汝。如是三說珠自當去。比丘受教寶珠不現。時諸比丘請佛為說宿業因緣。佛告比丘。乃往過去九十一劫。有佛出世號毘婆尸。入涅槃後。時彼國王名槃頭末帝。收其舍利造四寶塔。高一由旬。而供養之。時彼國王入塔禮拜。持一摩尼寶珠繫著棖頭。發願而去。緣是功德九十一劫不墮三塗。天上人中常有寶珠。在其頂上受天快樂。至今值佛出家得阿羅漢果。比丘聞已歡喜奉行	×	
《旋繞部第五》 ①如菩薩本行經云。昔佛在世時。佛與阿難入舍衛城而行乞食。時彼城中有一婆羅門。從外而來。見佛出城光相巍巍。時婆羅門歡喜踊躍。繞佛一匝作禮而去。佛便微笑告阿難言。此婆羅門見佛歡喜。以清淨心繞佛一匝。以此功德。從是以後二十五劫不墮惡道天上人中快樂無極。竟二十五劫得辟支佛。名持觀那祇梨。以是因緣若人旋佛及旋佛塔。		《旋遶緣第五》 ①如菩薩本行經云。昔佛在世時。佛與阿難入舍衛城。而行乞食。時彼城中有一婆羅門。從外而來。見佛出城光相巍巍。時婆羅門。歡喜踊躍。遶佛一匝作禮而去。佛便微笑。告阿難言。此婆羅門見佛歡喜。以清淨心遶佛一匝。以此功德從是以後。二十五劫不墮惡道。天上人中快樂無極。竟二十五劫得辟支佛。名持觀那祇梨。以是因緣。若人旋佛及旋佛塔。

所生之處得福無量也	所生之處得福無量也
②又提謂經云。長者提謂白佛言。散華燒香然燈禮拜。是為供養。旋塔得何等福。佛言。旋塔有五福德。一後世得端正好色。二得聲音好。三得生天上。四得生王侯家。五得泥洹道。何因緣得端正好色。由見佛像歡喜故。何緣得聲音好。由旋塔說經故。何緣得生天上。由當旋塔時意不犯戒故。何緣得生王侯家。由頭面禮佛足故。何緣得泥洹道。由有餘福故。佛言。旋塔有三法。一足舉時當念足舉。二足下時當念足下。三不得左右顧視唾寺中地。右繞者。經律之中制令右繞。若左繞行為神所呵。乃至左繞麥[廾/積]為俗所責。其徒眾矣。今時行事者。順於天時面西北轉。右肩袒膊向佛而恭也。或旋百匝十匝七匝三匝。各有所表。且論常行三匝者。表供養三尊止三毒。淨三業滅三惡道。得值三寶故。華嚴經偈云、 始欲旋塔、當願眾生、。施行福祐、究暢道意。繞塔三匝、當願眾生。得一向意、永絕三毒。	②又提謂經云。長者提謂白佛言。散花燒香然燈禮拜。是為供養。旋塔得何等福。佛言。旋塔有五福德。一後世得端正好色。二得聲音好。三生天上。四得生王侯家。五得泥洹道。何因緣得端正好色。由見佛像歡喜故。何緣得聲音好。由旋塔說經故。何緣得生天下。由當旋塔時意不犯戒故。何緣得生王侯家。由頭面禮佛足故。何緣得泥洹道。由有餘福故。佛言。旋塔有三法。一足舉時當念足舉。二足下時當念足下。三不得左右顧視唾寺中地。右邊者。經律之中制令右邊。若左邊行為神所呵。乃至左邊麥[廾/積]。為俗所責其徒眾矣。今時行事者。順於天時面西北轉。右肩袒膊向佛而恭也。或邊百匝十匝七匝。各有所表。且論常行三匝者。表供養三尊。止三毒。淨三業。滅三惡道。得值三寶故。華嚴經偈云 如欲旋塔、當願眾生。施行福祐、究暢道意。邊塔三匝、當願眾生。得一向意、不絕四喜。
③又賢者五戒經云。旋塔三匝者表敬三尊。一佛二法三僧。亦念滅三毒。一貪二瞋三癡。	③又賢者五戒經云。旋塔三匝者。表敬三尊。一佛二法三僧。亦念滅三毒。一貪二瞋三癡
④又三千威儀云。繞塔有五事。一低頭視地。二不得蹈蟲。三不得左右顧視。四不得唾塔前地上。五不得中住與人語。	④又三千威儀云。邊塔有五事。一低頭視地。二不得蹈虫。三不得左右顧視。四不得唾塔前地上。五不得中住與人語
×	⑤又大集經云。佛告梵天王等。我諸聲聞現在未來。三業相應。及與三種菩提相應。有學無學具足持戒。多聞善行度諸眾生。於三有海及諸施主。為我聲聞而造塔寺。亦復供給一切所須。及彼眷屬。付囑汝等。勿令惡王非法惱亂。爾時梵釋天王龍王夜叉等。合掌向佛而作是言。大德婆伽婆。已有一切如來塔寺。及阿蘭若處。及未來世若在家出家人。為於世尊聲聞弟子。造塔寺處。我等悉共守護。令離一切諸難怖畏。亦如有給施飲食衣服臥具湯藥一切所須。如是施主。我等亦當護持養育
×	⑥故七佛經云。護僧伽藍神。斯有十八神。一名美音。二名梵音。三名天鼓。四名歎妙。五名歎美。六名摩妙。七名香音。八名師子。九名妙歎。十名梵響。十一名人音。十二名佛奴。十三名歎德。十四名廣目。十五名妙眼。十六名徹聽。十七名徹視。十八名遍視。寺既有神護。居住之者亦宜自勵不得惰怠。恐招現報也
『法苑珠林』卷三七・敬塔篇第三十五之二	
×	《入寺緣第六》 述曰。依如西域。凡有士女既到伽藍。至寺門外慶以所遇。先整衣服總設一禮。入寺門已復設一拜。然後安庠直進。不得左右顧盻。故涅槃經云。往僧坊者有其七法。一者生信。二者禮拜。三者聽法。四者至心。五者思義。六者如說行。七者迴向大乘。利安多人住是七善。最勝最上不可譬喻

①又郁伽長者經。佛言。長者。居家菩薩入佛寺精舍。當住門外立心作禮。然後當入精舍。自念言。我何時當得如是居寺出塵垢之處

②又十住毘婆沙論云。在家菩薩若入佛寺。初欲入時於寺門外。五體投地應作是念。此是善人住處。行慈悲喜捨住處。是故須禮。若見諸比丘威儀具足。見已恭肅敬心禮拜。親近問訊。又自愛經云。時有國王詣佛所。遙見精舍下車卻蓋。解劍脫履拱手直進

③又僧祇律云。若行平視。迴時合身。總迴行時。先下腳跟後下腳指。又智度論云。先入來去安詳一心。舉足下足觀地而行。為避亂心為護眾生故。是名不退菩薩相。

④又西國寺圖云。行至佛所。禮三拜竟。圍遶三匝唄讚三契。禮拜既已。方至僧房房外一拜。然後入見上座。次第至下各設三拜。僧多一拜。若見非法之事。不得譏訶。若發言嫌責自失善利。非入寺之宜。

⑤故涅槃經云。夫入寺者。棄捨刀杖雜物然後入寺。捨刀杖者。去瞋恚三寶心也。捨雜物者。去從三寶乞求心也。且除兩過乃可入寺。順佛而行不得逆行。設復繞礙左遶。恒想佛在右。入出之時悉轉面向佛禮拜。三寶者。常念體唯是一。何者覺法滿足名佛。所覺之道名法。學佛道者名僧。則知一切凡聖體同無二也。若入寺時低頭看地。不得高視。見地有蟲忽誤傷殺。當歌唄讚歎。不唾僧地。若見草木不淨即須除卻。

⑥又四分律云。入僧寺已應先禮佛塔。次禮聲聞塔。後禮第一上座。乃至第四上座。又五分律云。若入僧多但別禮師。餘人總禮而去。

⑦又四分律云。得禮出家五眾亡人塔。及如來塔。又五百問事云。弟子得禮師塚。以報恩故。

⑧又增一阿含經云。塔中不應禮餘人。

⑨又十誦律云。佛塔聲聞塔前。自他不得禮。

⑩又五百問事云。佛塔前禮餘人得罪。

⑪又三千威儀經云。不得座上作禮。今時數有諸寺及以俗家。見有道俗向床上禮佛。此大憍慢。譬如欲拜大王豈得在床拜耶。人王尚自不許。何況法王得相比耶

⑫毘尼母論云。不得著革屣富羅入塔(此是靴履總名)五百問事云。若是淨潔靴履鞋靺等。得著禮拜。

⑬僧祇律云。若受人禮拜。不得如啞羊不語。當相問訊少病少惱安樂不。道路不疲苦不。

述曰。若有士人。或難因緣。須至寺宿。不得臥僧床席。必無私有。借臥如法。然不得共僧同其床臥。

⑭故寶梁經云。共僧同床半身枯死。墮地獄受其大苦。僧未眠時不得在先眠。不得調戲言笑說非法語。失於威儀驚動眾心。若有便利[口*弟]唾。為求法宿。不得出外者無犯。眠時右脅著床。以腳相壘。心係明相。念當早起。表出家因也。

⑮是故經云。仰臥者是修羅臥。伏地臥者是餓鬼臥。左脅臥者是貪欲人臥。右脅臥者是出家人臥。眾僧未起在前早起。嚴儀容服至僧房前。

⑯故沙彌威儀經云。若入師房應三彈指。

⑰又三千威儀經云。若入師房當具五法。一於外彈指。二當脫帽。三作禮。四正住教坐乃坐。五不忘持經。

⑱又僧祇律云。弟子應晨起先右腳入師房已。頭面禮足問安眠不。

⑲故善見論云。弟子參師當避六處。一不得當前。二不得當後。三不得太遠。四不得太逼。五不得處高。六不得上風立。當不近不遠側相而立。令師小語得聞。不費尊力也。又是行時威儀進止。皆不得離師。

⑳故善見論云。弟子從師行。不得以足蹈師影。述曰。若女人入寺法用同前。但不得在男子上座。形相語笑脂粉塗面。畫眉假飾非法調戲。共相排盪持手振人。必須攝心整容隨人教令。依次持香一心供養。懺悔自責。生女人中常成隔礙。於此妙法修奉無因。不得自專由他而辦。一何苦哉。深生悲悼。若見沙彌禮如大僧。勿以小位而不加敬。此於大僧為小。在俗為尊。如此等法竭力而行。法用既多。具在法苑珠林百卷之內士女篇述。

述曰。若男女所修事訖。須欲出寺。佛塔前設禮三拜。還須右遶三匝合掌唄讚。然後卻行出寺門外。復設一禮。若見僧時。徒眾若小各禮三拜。僧若多時總辭三拜。故善見論云。禮佛時應遶三匝三拜。四方作禮。合十指掌叉手於頂。卻行而出。絕不見如來。更復作禮迴前而去(表慕戀三寶重疊報恩也)凡是入寺之行。為作出世之緣。建立寺者。開淨土之因供養僧者。為出離之軌。故惟穢俗之鄙質。入伽藍之淨剎。所有施為恐乖法式也。若也還家微捨自賑。表僧有法施俗有財惠。舉動合宜內外俱益

《故塔部第六》

①依像法決疑經云。造新不如修故。作福不如避禍。斯言驗矣。或有村坊墳塔故寺伽藍堂殿朽壞舍屋崩摧。蓆扇蓬戶靡隔煙塵。甕牖茅茨無掩霜露。是以門墻凋毀糞穢盈階。路絕人蹤。僧徒漂寄不修不飾。日就衰羸。造罪造愆無時暫捨。夜暗燈燭本自無聞。晝日幡華元來非見。堂絕梵唄鐘停海檀。遂使惡鬼效靈善神捨衛。伽藍無固直為僧徒慢惰佛法既衰。亦由白衣無敬。此而不憂更欲何求。

②又寶梁經云。有一賢者。面上有國王文理。相師見已嫁女與之。後時賢者入僧寺中杖侍伽藍。生憍慢故失國王文理墮大地獄

③又薩遮經云。或嫌塔寺及諸形像妨礙送置餘處者。如是惡人。攝在惡逆眾生分中。上品治之

④又十輪經云。若破寺殺害比丘。其人壽終支節皆疼。多日不語死墮阿鼻地獄。具受諸苦。

⑤又三千威儀云。掃塔上有五事。一不得著履上。二不得背佛掃塔。三不得取上善土持下棄。四不當下佛像上故華。五當旦過澡手自持淨巾還拭佛像。復有五事。一當先灑地。二當使調。三當待燥。四不逆掃。五不得逆風掃。復有五事。一不得去善土。二當自手拾。草三當取中土轉著。下處四不得令四角掃處有跡。五掃塔前。六步使淨(此據事務故限約六步若事閑豫多掃彌善也)

⑥又正法念經云。若有眾生淨心供養眾僧掃如來塔。命終生意躁天。身無骨肉亦無污垢。香氣能熏一百由旬。其身淨潔猶如明鏡

⑦又正法念經云。若有眾生識於福田。見有佛塔風雨所壞。若僧房舍。以福德心塗飾治補。復教他人令治故塔。命終生白身天。其身鮮白入珊瑚林。與諸天女五欲自娛。業盡還退。若生人中其身鮮白

⑧又雜寶藏經云。若掃僧房一閻浮提地。不如掃佛塔一手掌(成論亦同)

⑨又撰集百緣經云。掃地得五功德。一自除心垢。二除他垢。三去憍慢。四調伏心。五增長功德得生善處

⑩又無垢清淨女問經云。掃地得五功德。一自心清淨他人見生淨心。二為他愛。三天心歡喜。四集端正業。五命終生善道天中。

《修故緣第七》

①依像法決疑經云。造新不如修故。作福不如避禍。斯言驗矣。或有村坊塔寺墳故。伽藍堂殿朽壞。舍屋崩摧。蓆扇蓬戶靡隔煙塵。瓮牖茅茨無掩霜露。是以門牆凋毀。糞穢盈階。路絕人蹤。僧徒漂寄不修不飾。日就衰羸。造罪造愆無時暫捨。夜暗燈燭本自無聞。晝日幡花元來非見。堂絕梵唄。爐但灰塵。遂使惡鬼效靈善神捨衛。伽藍無固。直為僧徒慢惰。佛法既衰。亦由白衣無敬。此而不憂。更欲何求。

②又寶梁契經云。有一賢者。面上有國王文。相師見已嫁女與之。後時賢者入僧寺中杖倚伽藍。生憍慢故失國王文。墮大地獄

③又薩遮經云。或嫌塔寺及諸形像。坊礙送置餘處者。如是惡人攝在惡逆眾生分中。上品治之

④又十輪經云若破寺殺害比丘。其人壽終。支節皆疼多日不語。死墮阿鼻地獄。具受諸苦。

⑤又三千威儀經云。掃塔上有五事。一不得著履上。二不得背佛掃塔。三不得取上善土持下棄。四不得取下佛像上故華。五當日一過澡手。自持淨巾拂拭佛像。復有五事。一當先灑地。二當使調。三當待燥。四不得逆掃。五不得逆風掃。復有五事。一不得去善土。二當自手拾草。三當取中土轉著下處。四不得令四角掃處有跡。五掃塔前六步便淨(此據事務故限約六步若事閑務多掃彌善也)

⑥又正法念經云。若有眾生淨心供養眾僧。掃如來塔。命終生意樂天。身無骨肉亦無污垢。香氣能熏一百由旬。其身淨潔猶如明鏡。

⑦又正法念經云。若有眾生識於福田。見有佛塔風雨所壞。若僧房舍。以福德心塗飾治補。復教他人令治故塔。命終生白身天。其身鮮白入珊瑚林。與諸天女五欲自娛。業盡還退。若生人中其身鮮白

⑧又雜寶藏經云。若掃僧房一閻浮提地。不如掃佛塔一手掌(成論亦同)

⑨又撰集百緣經云。掃地得五功德。一自除心垢。二除他垢。三去憍慢。四調伏心。五增長功德得生善處

⑩又無垢清淨女問經云。掃地得五功德。一自心清淨他人見生淨心。二為他愛。三天心歡喜。四集端正業。五命終生善道天中

⑪又沙彌威儀經云。掃地有五法。一不得背人。二不得逆掃。三當令淨。四不得有跡。五當即畚棄。

⑫又增一經云。掃佛塔有五法。一水灑地。二除去瓦石。三平正其地。四端意掃地。五除去穢惡地既淨已。隨能持一枝香華散布地上供養得福無量。故華嚴偈云、
散華莊嚴淨光明、莊嚴妙華以為帳。散眾雜華遍十方、供養一切諸如來。

⑬又百緣經云。昔佛在世時。與諸比丘到殑伽河邊。見一故塔毀落崩壞。比丘問佛此是何塔。朽故乃爾。佛告比丘。此賢劫中波羅奈國梵摩達王。正法治化。唯無子息。禱祀諸神求索有子。困不能得。時王國中有一池水生一蓮華。其華臺中有一童子結跏趺坐。有三十二相八十種好。口出優鉢羅華香。身諸毛孔出栴檀香。王及妃妃見甚歡喜。即抱還宮養育漸大。隨其行處蓮華承足。因香立字栴檀香。後寤非常成辟支佛。身升虛空作十八變。尋入涅槃。王收舍利起塔供養。是彼塔耳。比丘問佛。宿殖阿福受斯果報。佛告比丘乃往過去拘樓孫佛時有長者子。甚好婬色。見一婬女心生惑著。無財可與。遂至塔中盜華與之。乃共夜宿。曉即身體生其惡瘡。痛不可言。喚醫療治。

⑭醫占云。須牛頭栴檀用塗瘡上可得除愈。時長者子即賣家宅得於金錢滿六十萬。尋用買香正得六兩。擬用塗瘡。心自思惟。即語醫言。我今所患乃是心病。即持所買牛頭栴檀。擣以為末。入其塔中發誓願言。如來往昔修諸苦行。誓度眾生除其厄難。我今此身墮一生數。唯願世尊。慈悲憐愍除我此患。作是誓已用香塗塔。以償華價。至心供養求哀懺悔。瘡尋得差。身諸毛孔有栴檀香。聞此香已歡喜禮拜發願而去。緣是功德不墮惡道。天上人中常受快樂。隨其行處蓮華承足。身諸毛孔常有香氣。是故智者當作是學

⑭又小法滅盡經云。後劫火起時。曾作伽藍所不為火焚。乃至金剛界為上臺也

⑮又菩薩本行經云。昔佛在世時告五百阿羅漢。汝等各說前世宿行所作功德。今得值我得道因緣。時有阿羅漢。名婆竭多梨。即從坐起白佛言。世尊。我念過去無央數劫有佛出世。號曰定光。入涅槃後分布舍利起塔供養。法欲末時有一貧人。無方自濟賣薪為業。向澤採薪。遙見澤中有一塔寺。甚為巍巍。即到塔邊瞻睹形像歡喜作禮。唯見狐狼飛鳥走獸止宿之處。草木荊棘不淨滿中。迴絕無人復無行跡。無供養者。貧人睹見心中愴然。而不曉知如來神德。但以歡喜誅伐草木掃除不淨。掃訖歡喜繞之八匝作禮而去。緣此功德命終之後生光音天。眾寶宮殿光明晃煜。於諸天中巍巍最勝不可計量。盡其天壽而後復百返作轉輪王。七寶自然王四天下。後復壽盡常生國王大姓長者家。財富無量。顏容端正殊妙無雙。人見歡喜無不愛敬。欲行之時道路自淨。虛空之中雨散眾華。婆竭多言。昔貧人者今我身是。由昔掃塔生處自然。一阿僧祇九十劫中不墮惡道。天上人間富貴尊榮封受自然快樂無極。今最後身值釋迦佛。捨豪出家得阿羅漢。三明六通具八解脫。若有人能於佛法僧少作微善如毛髮許。所生之處受報弘大無有窮盡

⑪又沙彌威儀經云。掃地有五法。一不得背人。二不得逆掃。三當令水灑。四當令淨。五當即分卻

⑫又增一經云。掃佛塔有五法。一水灑地。二除去瓦石。三平正其地。四端意掃地。五除去穢惡。地既淨已。隨能持一枝香花。散布地上供養。得福無量。故華嚴經偈云
散華莊嚴淨光明、莊嚴妙華以為帳。散眾雜華遍十方、供養一切諸如來。

×

×

⑭又小法滅盡經云。後劫火起時。曾作伽藍所不為火焚。乃至金剛界為土臺也

⑮又菩薩本行經云。昔佛在世時。告五百阿羅漢。汝等各說前世宿行所作功德。今得值我得道因緣。時有阿羅漢名婆竭多梨。即從坐起白佛言。世尊。我念過去無央數劫。有佛出世號曰定光。入涅槃後。分布舍利起塔供養。法欲末時有一貧人。無方自濟賣薪為業向澤採薪。遙見澤中有一塔寺甚為巍巍。即到塔邊。瞻睹形像歡喜作禮。唯見狐狼飛鳥走獸止宿之處。草木荊棘不淨滿中。絕迴無人。復無行跡。無供養者。貧人睹見心用愴然。而不曉知如來神德。但以歡喜。誅伐草木掃除不淨。掃訖歡喜遶之八匝。作禮而去。緣此功德命終之後生光音天。眾寶宮殿光明晃煜。於諸天中巍巍最勝。不可計量。盡其天壽。而復百返作轉輪王。七寶自然王四天下。後復壽盡。常生國王大姓長者家。財富無量顏容端正殊妙無雙。人見歡喜無不愛敬。足行之時道路自淨。虛空之中雨散眾花。婆竭多言。昔貧人者今我身是。由昔掃塔生處自然。一阿僧祇九十劫中不墮惡道。天上人間富貴尊榮。封受自然快樂無極。今最後身值釋迦佛。捨豪出家得阿羅漢。三明六通具八解脫。若有人能於佛法僧。少作微善如毛髮許。所生之處受報弘大。無有窮盡

⑯又譬喻經說。祇陀太子昔毘婆尸佛時。布施一奴一婢給掃寺廟。緣此功德世世常得七寶宮宅。門戶兩邊常有自然金銀男女擎持寶缽。滿中七寶取無窮盡。夜中常有自然天兵五百餘騎。衛護其舍。無敢近者。輪王七寶者。一金輪寶。二白象寶。三紺馬寶。四神珠寶。五玉女寶。六主藏臣寶。七主兵神寶

⑰又雜寶藏經云。昔舍衛國中有一長者。造立塔寺。後時命終生忉利天。其婦晝夜追憶夫故愁憂苦惱。以憶夫故常掃治夫所造塔寺。夫下觀見即來婦所。問訊安慰而語之言。汝憶我故大憂愁耶。婦即語言。汝為是誰。天尋答言。我是汝夫。以作塔寺功德因緣得生天。見汝憶我修治塔寺。故來汝所。婦言。近我。夫則答言。人身臭穢不復可近。汝復欲得為我妻者。勤供佛僧修掃塔寺。願生我天。若得生天我必當還以汝為妻。婦用夫語。作諸功德發願生天。其後命終得生天上。還為夫婦。夫婦相將來至佛所。佛為說法。夫婦並得須陀洹果。既得果已還歸天上

⑱又分別功德論云。昔舍衛城中有夫婦二人。而無子息。夫婦精進信敬三寶時婦蚤亡。由信敬故生忉利天。以為天女。面首端正天中少比。天女自念。我極端正。今此世間誰任我夫。便以天眼觀見本夫。今已出家年老暗短專信而已。常勤掃除塔廟善業。見其掃塔必應生天。天女尋下。光明照曜住其夫前。比丘見已問其因緣。天女答曰。我是君婦。今為天女。我觀天上無任我夫。見君精進常勤掃塔。必應生天。若得生天願同一處還為我夫。是以故來陳其情狀。白意已訖還歸天上。時夫比丘見此事已。從是以後倍加精進。修補塔廟積功轉勝。應生第四兜率天上。天女憶夫復來語言。君福轉勝應生兜率天。我今不復得君為夫。語訖還去。比丘聞已倍加精進。遂獲得阿羅漢果。三明六通具八解脫

⑲又百緣經云。佛在世時。迦毘羅城中有一長者。財寶無量。其婦生一兒。端正殊妙見者敬仰。漸大見佛得阿羅漢果。爾時世尊告諸比丘。乃往過去九十一劫有毘婆尸佛。入涅槃後有王名槃頭末帝。收取舍利造四寶塔而供養之。其後小毀。有童子入塔見此破處。和顏悅色集喚眾人共塗治塔。發願而去。緣是功德九十一劫不墮地獄畜生餓鬼。天上人中受樂無極。常為天人所見敬仰。乃至今值於我。為諸人所見敬仰出家得道。聞佛所說歡喜奉行。

頌曰、

遺身八萬塔、寶飾高百丈。儀鳳異靈烏、金盤代仙掌。積栱承雕角、高簷挂樹網。
寶地若池沙、風鈴如積響。刻削生千變、丹青圖萬像。煙霞時出沒、神仙乍來往。
晨霧半層生、飛幡接雲上。游蜺不敢息、翔[昆*鳥]詎能仰。聖變無窮瑞、感福豈三兩。
願假舟航末、彼岸誰為廣。

⑯又譬喻經云。說祇陀太子昔毘婆尸佛時。布施一奴一婢給掃寺廟。緣此功德。世世常得七寶宮宅。門戶兩邊常有自然金銀男女。擎持寶缽。滿中七寶取無窮盡。夜中常有自然天兵。五百餘騎衛護其舍。無敢近者。輪王七寶者。一金輪寶。二白象寶。三紺馬寶。四神珠寶。五玉女寶。六主藏臣寶。七主兵神寶

⑰又雜寶藏經云。昔舍衛國中有一長者。造立塔寺。後時命終生忉利天。其婦晝夜追憶夫故。愁憂苦惱。以憶夫故。常掃治夫所造塔寺。夫下觀見即來婦所。問訊安慰而語之言。汝憶我故大憂愁耶。婦即語言。汝為是誰。天尋答言。我是汝夫。以作塔寺功德因緣得生天上。見汝憶我修治塔寺。故來汝所。婦言。近我。夫即答言。人身臭穢不復可近。汝復欲得為我妻者。勤供佛僧修掃塔寺。願生我天。若得生天。我必當還以汝為妻。婦用夫言。作諸功德發願生天。其後命終得生天上。還為夫婦。夫婦相將來至佛所。佛為說法。夫婦並得須陀洹果。既得果已還歸天上

⑱又分別功德論云。昔舍衛城中有夫婦。二人而無子息。夫婦精進信敬三寶。時婦早亡。由信敬故生忉利天。以為天女。面首端正天中少比。天女自念。我極端正。今此間誰任我夫。便以天眼觀見本夫。今以出家年老暗短。專信而已。常勤掃除塔廟為業。見其掃塔必應生天。天女尋下。光明照曜住其夫前。比丘見已問其因緣。天女答曰。我是君婦今為天女。我觀天上無任我夫。見君精進常勤掃塔。必應生天。若得生天。願同一處還為我夫。是以故來陳其情狀。白意已訖還歸天上。時夫比丘見此事已。從是以後增加精進。修補塔廟積功轉勝。應生第四兜率天上。天女憶夫復來語言。君福轉勝應生兜率天。我今不復得君為夫。語訖還去。比丘聞已倍更精進。遂獲得阿羅漢果。三明六通具八解脫

⑲又百緣經云。昔佛在世時迦毘羅城中。有一長者。財寶無量。其婦生一兒。端正殊妙。見者敬仰。漸大見佛得阿羅漢果。爾時世尊告諸比丘。乃往過去九十一劫有毘婆尸佛。入涅槃後。有王名槃頭末帝。收取舍利造四寶塔。而供養之。其後小毀。有童子入塔見此破處。和顏悅色。集喚眾人共塗治塔。發願而去。緣是功德。九十一劫不墮地獄畜生餓鬼。天上人中受樂。常為天人所見敬仰。乃至今值於我。為諸人所見敬仰。出家得道。聞佛所說歡喜奉行。

頌曰、

遺身八萬塔、寶飾高百丈。儀鳳異靈烏、金槃代佛掌。積拱承彫角、高簷挂樹網。
寶地若池沙、風鈴如積響。刻削生千變、丹青圖萬像。煙霞時出沒、神仙乍來往。
晨霧半層生、飛旛接雲上。遊蜺不敢息、翔[昆*鳥]詎能仰。福地下金繩、天報豈虛[打-丁+王]。
願假舟航末、彼岸誰云廣。